

## CSR経営

T&D保険グループは、変化する社会の課題に向き合い、社会が必要とする保険商品・サービスの提供を通じて社会に価値を創造し、グループの持続的成長の実現を目指しています。

### グループ経営理念

Try & Discover(挑戦と発見)による価値の創造を通じて、  
人と社会に貢献するグループを目指します。

### グループCSR憲章

(前文)

T&D保険グループは、経営理念に基づき、社会とともに持続的成長を遂げ、  
生命保険業等の公共的使命と企業の社会的責任を果たします。



より良い商品・サービスの提供



コンプライアンスの徹底



人権の尊重



コミュニケーション



地域・社会への貢献

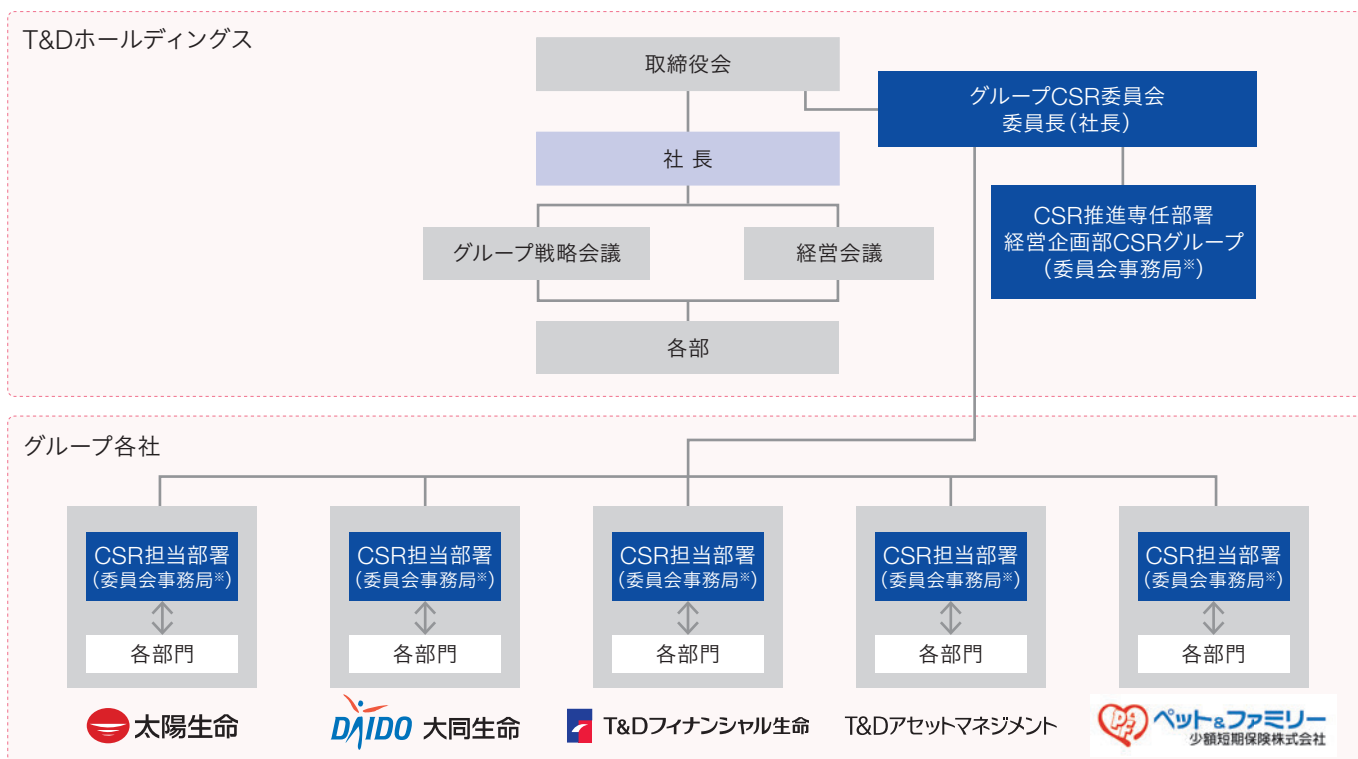


地球環境の保護

# CSR推進体制

T&D保険グループでは、グループ各社のCSR担当役員などを構成メンバーとする「グループCSR委員会」を設置しています。当委員会はグループCSR活動推進の要となり、CSR活動の基本方針と重点分野を定め、年間計画を策定し、その実施状況を定期的に確認しています。

## 【T&D保険グループCSR推進体制】(2017年7月31日現在)



※ 委員会事務局=グループCSR委員会事務局

- **グループCSR委員会**：委員長はT&Dホールディングス社長(代表取締役、取締役会議長)、副委員長はT&Dホールディングス経営企画部担当執行役員です。2016年度の開催回数は4回。審議・検討または情報の共有を行った事項は、取締役会に報告しています。

また、T&Dホールディングスおよびグループ各社のCSR担当部署が共同してグループCSR委員会事務局を構成しています。委員会事務局は、グループ各社のCSR活動の情報を共有するとともに、グループCSR委員会の運営・活動を補佐し、グループ各社のCSR活動を推進しています。

- **T&Dホールディングス CSR担当部署**：T&Dホールディングス 経営企画部 CSRグループ
- **グループ各社CSR担当部署**：グループ各社 企画部門にCSR担当部署を設置

## CSR活動の重点分野

T&D保険グループは、事業活動に関わるさまざまなCSR活動の分野から、ステークホルダーへの影響が大きく、T&D保険グループが安定的・持続的に企業価値を向上させるために優先して取り組むべきCSR重点分野として、「より良い商品・サービスの提供」、「人権の尊重」、「地球環境の保護」を選定し、グループCSR活動を推進しています。



### ● 重点分野選定のプロセス

#### 《活動分野の分類》

CSR活動分野をISO26000、GRIガイドラインを参考に15分野に分類しました。

#### 《各分野の優先順位づけ》

各分野の重要性をステークホルダーへの影響<sup>※1</sup>と、当社グループの安定的・持続的な企業価値向上への影響<sup>※2</sup>の両面から定量的に評価し、3つの分野を重点分野候補として選定しました。

※1 ステークホルダーダイアログ指摘事項、SRI評価機関等の評価項目、他社のCSR取組状況等から評価。

※2 T&D保険グループ経営理念・経営ビジョン・CSR憲章との関連性、グループが取り組むCSR活動の内容等から評価。

#### 《重点分野の評価・選定》

3つの重点分野候補が社会の関心と取組要請の強さの側面、グループ経営理念・経営ビジョン・グループCSR憲章の実現の側面、およびSDGs<sup>※3</sup>への貢献の側面から、相対的に取組優先度が高いことを確認し、重点分野として選定しました。

※3 「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)とは、2015年「国連持続可能な開発サミット」で採択された、世界の人人々が協力して、世界の持続可能な発展を実現するための目標。

#### 《重点分野の適切性の確認》

- ・ 第三者機関による重要分野選定プロセスのヒアリングと証跡のチェックを受け、レビュー結果報告を受けました。
- ・ グループCSR委員会(T&Dホールディングス社長が委員長)で審議を行い、重点分野選定の承認を受け、取締役会に報告しました。

## 重点分野①より良い商品・サービスの提供

少子高齢化の進展により、さまざまに変化する社会とお客さまのニーズにお応えする商品とサービスの提供は、T&D保険グループが果たすべき最も基本的な社会的責任と考えています。

### 1 生命保険会社3社の取組事例

太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命の取組事例については、右記のページをご覧ください。

太陽生命：P30～33

大同生命：P34～37

T&Dフィナンシャル生命：P38～41

### 2 T&Dアセットマネジメントの取組事例

#### 《持続可能な社会形成に貢献する商品》

ESG(環境、社会、ガバナンス)リサーチに基づいた銘柄選択によりESGに優れた企業に選別投資することで、中長期的に市場平均を上回る投資リターンを獲得を目指すと同時に、環境負荷の低減や健全な社会の実現に資する企業への投資を通じて持続可能な社会形成に貢献する「日本株式ESGリサーチファンド」を設定・運用しています。



### 3 ペット&ファミリー少額短期保険の取組事例

#### 《大切な家族のために》

ペットを家族の一員として認識する飼い主の意識の変化により、ペット医療およびその費用への関心がますます高まっています。

飼い主さまとペットが安心して治療を受けることができるよう、ペットが病気やケガにより動物病院で治療を受けた費用の一定割合を補償する商品「げんきナンバーわん」「げんきナンバーわんスリム」をご提供しています。



CSR活動の重点分野

重点分野②人権の尊重

T&D保険グループは、国際的に宣言されている人権の保護を支持し尊重すること、また、社会の要請に応えられる従業員が働きやすい職場づくりを進めることは、企業の成長と社会の活性化につながる、企業が果たすべき重要な社会的責任と考えています。

1 ワーク・ライフ・バランスへの取組み

T&D保険グループ各社では、従業員が家事や育児、介護などの家庭責任を果たしながら仕事で十分に能力を発揮し、パフォーマンスを高めるために、育児休業などの制度の充実や総労働時間の縮減など、さまざまな取組みを強化しています。

● 出産・育児休業取得状況

	2014年度	2015年度	2016年度
産前産後休暇取得者数(名)	234	290	328
育児休業を取る権利を有していた従業員数(名)	410	432	462
男性	176	142	134
女性	234	290	328
育児休業取得者数(名)	366	406	450
男性	153	140	133
女性	213	266	317
介護休業取得者数(名)	6	8	12
男性	0	0	0
女性	6	8	12

※ 生命保険会社3社の出産・育児休業取得状況。

※ なお、生命保険会社3社内務職員の育児休業取得後復職状況は、以下のとおりです。

2014年度：220名(97.8%) [男性143名(100%) 女性77名(93.9%)]

2015年度：230名(97.5%) [男性142名(99.3%) 女性88名(94.6%)]

2016年度：228名(99.6%) [男性133名(100%) 女性95名(99.0%)]

● 有給休暇取得状況

	2014年度	2015年度	2016年度
有給休暇平均取得日数(日)	11.0	11.8	12.4

※ 生命保険会社3社内務職員の有給休暇取得状況。

● 次世代育成支援

子育てサポート企業として厚生労働省から「くるみん認定」を受けた企業に対し、より高い水準の取組みを行い、一定要件を満たした場合に与えられる「プラチナくるみん認定」が2015年4月より始まりました。

当社グループの生命保険会社3社は積極的な取組みが評価され、そろって同認定を取得しました。



## 2 女性の活躍を支援する取組み

女性が従業員の多数を占めるT&D保険グループにあって、女性のさらなる能力発揮は持続的な企業価値向上の源泉であり、女性の活躍はグループの重要な経営課題と認識しています。この認識のもと、生命保険会社3社では、各社で人事・処遇制度を改定するとともに、各種両立支援制度を導入してきました。

これら女性活躍推進の取組みを着実に前進させるために、生命保険会社3社はそれぞれのビジネスモデルに基づいた行動計画を策定しています。

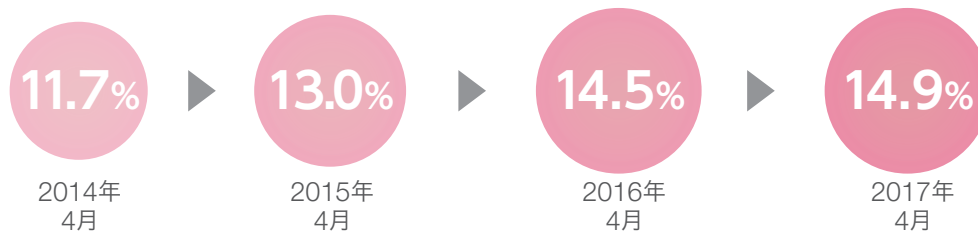
### ● 行動計画 生命保険会社3社の女性活躍推進

女性活躍推進の行動計画と女性管理職登用の目標を開示。女性管理職比率は着実に上がっています。

#### 【行動計画】



#### 【女性管理職比率の推移(3社合計)】



## 3 障がい者雇用への取組み

2017年3月時点の生命保険会社3社の障がい者雇用数は合計328名(うち、2016年度の新規雇用者は35名)であり、障がい者雇用率は2.22%です。今後も障がいのある従業員が働きやすい職場づくりをさらに進め、障がい者雇用の促進に努めてまいります。

### ● 生命保険会社3社の障がい者雇用状況

	2014年度	2015年度	2016年度
障がい者雇用率(%)	2.20	2.27	2.22

CSR活動の重点分野

4 健康経営の取組み

T&D保険グループ各社では、健康経営の理念のもとすべての従業員が心身ともに健康で生き活きと働ける職場の実現を目指しています。

なお、太陽生命および大同生命は、経済産業省が従業員の健康増進に取り組む「健康経営」を実践している企業などを顕彰する制度である「健康経営優良法人認定制度」に基づき、大規模法人部門において「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定されました。

太陽生命の「太陽の元気プロジェクト」および大同生命の「DAIDO-ココ・カラ」の推進を通じて、従業員の健康増進を図るための各種取組みを実施し、すべての従業員が心身ともに健康で生き活きと働ける職場の実現を目指しています。



重点分野③地球環境保護

T&D保険グループは、グループ各社が協力し、グループとしての環境保護関連の目標を設定して毎日の事業活動の中でその達成に向けた取組みを進めています。目標は、「電力使用量の削減」、「事務用紙使用量の削減」、「グリーン購入比率の向上」の3つです。

● 電力使用量

(基準値)2009年度の原単位(床面積当たりの電力使用量) 119 kWh/m<sup>2</sup>  
(目標)基準値に対し、2013年度～2017年度の5年平均で10%以上削減する。

★は第三者による限定的保証を取得しています。

	基準値	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 <sup>※2</sup>	進捗状況 (2013年度～2016年度の平均値)
電力使用量 <sup>※1</sup>	72,163 千kWh	57,873 千kWh	56,340 千kWh	56,573 千kWh	58,508 千kWh★	57,324 千kWh
延べ床面積	606 千m <sup>2</sup>	583 千m <sup>2</sup>	578 千m <sup>2</sup>	605 千m <sup>2</sup>	589 千m <sup>2</sup>	589 千m <sup>2</sup>
原単位	119 kWh/m <sup>2</sup>	99 kWh/m <sup>2</sup>	97 kWh/m <sup>2</sup>	93 kWh/m <sup>2</sup>	99 kWh/m <sup>2</sup>	97 kWh/m <sup>2</sup>
対基準値	—	83.3%	81.9%	78.5%	83.4%	81.8% (基準値から18.2%削減)

延べ床面積が期中で増減する場合は、その期間の平均値を集計しています。

※1 全体の電力使用量から所有ビルのテナント使用分を除いたもの。

※2 一部の算定対象の追加により過年度数値を調整しました。

● 事務用紙使用量

(基準値)2009年度～2013年度の5年平均 183.6 t  
(目標)基準値に対し、2014年度～2018年度の5年平均で9%削減する。

★は第三者による限定的保証を取得しています。

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度★	進捗状況(2014年度～2016年度の平均)
163.2 t	160.2 t	151.8 t	123.1 t	79.0% (基準値から21.0%削減)

事務用紙の購入量を集計しています。

● グリーン購入比率

(目標)発注する文具および事務用品におけるグリーン適合商品の割合を80%以上にする。

2014年度	2015年度	2016年度
96.0%	95.9%	96.0% (目標より16.0%上回った)

オンライン購買システムを通じた購入を対象とします。

# 地域・社会への貢献

T&D保険グループは、社会性・公共性が高い生命保険業を営むグループとして、社会貢献活動に取り組んでいます。ここでは主な活動についてご報告します。

## 健康と福祉の向上

### ● 献血活動

T&D保険グループは、東京都赤十字血液センターに協力し、夏季と冬季の年2回、各社本社部門（東京）が共同で献血活動を行っています。グループ共同で各社の役職員に協力を呼びかけ、2016年度は、延べ314名が献血に参加しました。



### ● 太陽生命グッドウィル・サークル友の会

2005年12月設立の「太陽生命グッドウィル・サークル友の会」は、太陽生命および関連会社の役職員などで構成され、2017年3月31日時点での会員数は8,632名です。会員は社会貢献活動支援のため、毎月の報酬・給与の手取り金額の100円未満の端数、または100円を1口とした任意の金額（1口以上10口まで）を拠出しています。



写真提供：ジョイセフ

#### 《2016年度の主な活動》

- ・ 地域社会への貢献：熊本地震の被災者に対する支援、プルタブ・アルミ缶およびペットボトルキャップの収集・寄贈、ココリナ倶楽部による老人ホーム慰問（交通費の補助）。
- ・ 教育支援：公益財団法人ジョイセフを通じてアフガニスタンの子どもたちにランドセルを寄贈。

### ● 大同生命社会貢献の会

1992年に役職員による自主的な企業市民活動組織として「大同生命社会貢献の会」が設立され、募金活動やボランティア活動の推進・支援に取り組んでいます。また、ボランティア休暇制度を利用して、日ごろ外出機会の少ない障がい者の方々の外出を支援する「障がい者一日外出支援ボランティア活動」を、1994年から実施しています。



#### 《2016年度の主な活動》

- ・ 募金・寄付：役職員から寄せられた募金やチャリティー・カレンダー展での収益金を原資に、障がい者施設（2011年の東日本大震災および2016年の熊本地震で被災された施設を含む）や社会福祉団体などに寄付。
- ・ ボランティア：全国障害者スポーツ大会へのボランティア参加、障がい者一日外出支援ボランティア活動の実施、大阪本社や東京本社周辺での清掃活動への参加。



## 地域・社会への貢献

### ●公益財団法人日本ダウン症協会への支援

太陽生命と太陽生命グッドウィル・サークル友の会は、公益財団法人日本ダウン症協会と交流し、支援をしています。

#### 《主な活動》

- ・同協会の賛助会員として、活動を支援。
- ・同協会が開催するセミナーの会場や評議委員会・理事会の会合に太陽生命の会議室を提供。
- ・同協会の活動に対し、支社や本社部署の役職員がボランティアとして参加。



### ●障がい者スポーツへの協賛

大同生命は、1992年の「第1回全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)」※より、20年以上にわたり全国障害者スポーツ大会に特別協賛しています。2016年度は、「希望郷いわて大会」に大同生命の役職員や提携団体の方をはじめ、太陽生命の役職員など、約300名が式典観覧やブース運営ボランティアとして参加し、大会をサポートしました。



また、2015年1月からは公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとして、障がい者スポーツのより一層の普及・発展に向けた取組みを行っています。

※「全国知的障害者スポーツ大会」は、2001年に「全国身体障害者スポーツ大会」と統合され、「全国障害者スポーツ大会」として開催されるようになりました。

## 健全な社会の発展

### ●全国一斉クリーンキャンペーン

太陽生命は1982年から、地域社会への社会貢献活動として、本社周辺の清掃活動を行ってきました。2004年からは「全国一斉クリーンキャンペーン」として、全国の支社でも周辺地域の清掃活動を実施しています。

2016年度は、本社・関連会社および支社から5,722名(従業員の家族を含む)が参加しました。



### ●寄付による大学でのオープン講座

大同生命は2002年の創業100周年を機に、毎年、「寄付による大学でのオープン講座」を開催しています。本講座では、理論と実践を織り交ぜた講義テーマを設定し、中小企業経営者・後継者や地域の皆さまに経営・ビジネスなどに関する知識・スキルの習得の場をご提供するもので、過去15年間の累計受講者数は、13,000人以上に上っています。



2016年度は、広岡浅子(大同生命創業者の一人である明治・大正期の実業家)が創立に関わった日本女子大学をはじめ、9大学で開催しました。

# 責任ある機関投資家

社会性・公共性の高い生命保険業を事業の中心とするT&D保険グループにとって、機関投資家としての社会的責任を果たし、投融資活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献することは、最も基本的な責務の一つです。

## 1. 社会的責任投資の取組事例

### 太陽生命

- ▶▶ 「グリーンボンド」への投資など、環境への貢献ができる投融資
- ▶▶ 保有不動産を活用した老人ホーム建設など、環境・シニア社会に配慮した不動産投資
- ▶▶ 「EYEボンド」や「元気健康応援ファンド」への投資など、持続可能な社会の実現に貢献できる投資

### 大同生命

- ▶▶ 再生可能エネルギー分野などのインフラ事業への投融資
- ▶▶ 日本経済を支える中小企業の成長や発展を支援するファンドへの投資
- ▶▶ ソーシャルボンドへの投資
- ▶▶ 保有ビルにおける地球環境・地域社会への貢献

### T&Dアセットマネジメント

- ▶▶ ESG調査情報を取り入れた投資先評価

### グループ協働

- ▶▶ T&D日本株式ESGリサーチファンドへの投資
- ▶▶ 日本成長戦略ファンドへの投資

## 2. 「責任ある機関投資家」の諸原則

太陽生命、大同生命、T&Dアセットマネジメントの3社は、2014年5月に、「責任ある機関投資家」の諸原則（日本版スチュワードシップ・コード）の趣旨に賛同し、その受け入れを表明しました。

各社の諸原則に対する基本的な方針、議決権行使方針および会社別・議案別などの議決権行使状況の詳細は、それぞれのホームページで公開しています（和文）。

太陽生命	<a href="https://www.taiyo-seimei.co.jp/company/activity/ssc.html">https://www.taiyo-seimei.co.jp/company/activity/ssc.html</a> <a href="https://www.taiyo-seimei.co.jp/company/activity/exercise.html">https://www.taiyo-seimei.co.jp/company/activity/exercise.html</a>
大同生命	<a href="https://www.daido-life.co.jp/company/info/ssc.html">https://www.daido-life.co.jp/company/info/ssc.html</a> <a href="https://www.daido-life.co.jp/company/info/voting.html">https://www.daido-life.co.jp/company/info/voting.html</a>
T&Dアセットマネジメント	<a href="http://www.tdasset.co.jp/company/principles/stewardship/">http://www.tdasset.co.jp/company/principles/stewardship/</a> <a href="http://www.tdasset.co.jp/company/principles/voting/">http://www.tdasset.co.jp/company/principles/voting/</a>

※ T&Dフィナンシャル生命は上場株式会社による運用を行っておらず、今後も予定していないため、スチュワードシップ・コードへの賛同を表明する予定はありません。

## イニシアティブへの参加

T&D保険グループは、事業を通じて持続可能な世界の維持・発展に役割を果たしていくためのさまざまなイニシアティブへの賛同および支持を表明しています。

### ●国連グローバル・コンパクト

T&D保険グループは、国連が提唱する持続可能な成長を実現するための国連と企業の協力の枠組みである「国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact(以下、UNGC))」に署名しています。

UNGCは、「人権」、「労働」、「環境」、「腐敗防止」の4分野にわたる10の原則を掲げ、企業に責任ある行動を促すものです。T&D保険グループはUNGCの理念に賛同し、T&Dホールディングスがグループを代表して同原則への支持を表明する書簡に署名しています。



### ●責任投資原則 (PRI)

T&D保険グループでは、太陽生命、大同生命およびT&Dアセットマネジメントが、機関投資家などに対してESG[環境 (Environment)・社会 (Social)・企業統治 (Governance)]を考慮した投資行動を促す行動規範である「責任投資原則 (PRI) ※1」に賛同し署名をしています。

※1 責任投資原則 (PRI)：正式名称を「United Nations Principles for Responsible Investment」といい、国連環境計画・金融イニシアティブおよび国連グローバル・コンパクトが事務局となり策定された、機関投資家の意思決定プロセスにESGの視点を反映させるための考え方を示した原則です。

Signatory of:



### ●持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則)

T&Dホールディングスおよびその直接子会社5社は、金融機関の自主的な行動原則である「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則) ※2」に賛同し、署名しています。

※2 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則)は、環境省が事務局機能を担い、幅広い金融機関で構成される「環境金融行動原則起草委員会」により、持続可能な社会形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として策定されました。

